



Title	コメンテーター講評
Author(s)	和栗, 百恵
Citation	GLOCOLブックレット. 2016, 18, p. 124-125
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/55603
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

4-6 コメンテーター講評

和栗百恵 福岡女子大学国際文理学部准教授

GLOCOL 教職員4名の報告に対して、コメントを3点いただきました。

1. 組織自体のユニークさ

GLOCOL は、いわゆる「国際交流センター」「教育学習支援センター」「ボランティアセンター」といった要素を持つセンターが一体となったかのような組織であり、全国的にみても非常に面白いです。様々な研究科や学部を横断して研究や教育、実践に取り組むというその組織のミッション自体がユニークです。

2. 海外体験型教育プログラムへの意欲的な取り組み

海外体験型教育プログラムの実践に非常に果敢に取り組んでいます。知見のあるところからみると依然として改善の余地はあるものの、本日の発表においては実現できたこと、できていないことが詳らかに報告されており、その意欲的な取り組みは評価できます。特に学生海外渡航時のリスク管理については、5年間でしっかりと整理されており、他大学にとっても非常に参考になると思われます。また、履修登録や経費支出(携帯電話通信料、謝金、保険料、事前調査費用等)にかかる課題に関しては、GLOCOL では試行錯誤の中から対処策を生み出していますが、これらの問題は、GLOCOL のみならず、他大学の担当者も苦労している点でしょう。特に、プログラムを行う際の事前調査は、安全配慮義務および予見可能性の観点から必須であるにもかかわらず、多くの大学では事前調査の予算が認められない場合が多くあります。万一、危機に遭遇した場合には、大学の責任が問われかねない憂慮すべき点です。また、引率者がプログラム実施に欠かせない現地協力者との関係を築くために必要な費用(飲

食代等)についても、様々大学内における使途規程はあるにしろ、認められてよい経費でしょう。文部科学省の競争的資金等を活用して、これから海外体験型教育を始める大学も多く、そのために任期付きで若い教員を雇う場合が多いと思われます。3年や5年といった期限付きで雇われる教員は、自身が過去に投資した経験や人脈までも提供して業務を進めるのであって、せめてプログラム構築に欠かせない、人間関係を築いていくための費用の支出が可能となることが望ましいです。

3. 教育学の観点から

GLOCOL では、海外体験型教育を高等教育を専門としないスタッフが大学の教育手法として探究してきたことが面白いです。一方で、例えば「育みたい人間像」として示された事柄と、シラバスや学生が作成する報告書の内容の連動性という点ではまだ改善の余地があります。これは、決して認証評価のために辻褃を合わせる作業を行うというようなことではなく、大学がますます淘汰される時代にあって、学習者へのより質の高い教育の提供につなげるためです。どうやって教育目標を立て、どうやってその目標と課題と評価方法を連動させるのかについては、体系化された手法や実践例も多数存在するので、教育学習支援センターのような組織と連携しつつ進めていくのが効果的でしょう。